

## 絵本とともに

廣井 なつみ

柳田先生、初めてお手紙を差し上げます。この度、先生の絵本大賞というものを知り、自分と絵本について深く見つめ直す機会をいただき、喜ばしく思います。

母は、私が子どもだった頃の話になると、決まって「あなたは夢見る夢子ちゃんだったから。」と言います。絵本が大好きで、母もよく読み聞かせてくれました。3月生まれで、周りの子と比べるといつものんびりしていたので、母としては心配も多かったそうですが、私自身はそんな事は露知らず、友達と園庭を走り回り、しろくまちゃんと

ほつとけーきを作り、時には弟とけんかをし、はたまたノンタンと一緒にネコサンタを探しに出かけたり。絵本の世界と現実を行き来しながら、楽しい幼少時代を過ごしました。

年を重ねても、いつも傍らに絵本や児童書がありました。社会に出てからも、友人との関係で行き詰まるとがまくんとかえるくんに相談し、仕事に疲れた時はルーシー達とナルニア国を冒険しました。会社帰り、つい足が書店へ向き、いつか子どもにも読んであげられるし・・・と自分に言い訳をして、気に入った絵本を買い集めていました。

今、我が家には6歳と4歳の娘がいます。上の子が生まれて間もない頃、育児と家事に追われる中の束の間の休息に、まだ首も座っていない娘の隣へ寝そべって、早すぎるかなと思いつつ、「もう

ねんね」や「いないいないばあ」を読む合間に、ぐりとぐらや「ちいさいおうち」を紛れ込ませていました。あれは、娘の為と言うより、私がホッとひと息つく為だった様に思います。

最近の娘達のお気に入りは「カレーライス」や「サンドイッチサンドイッチ」を読みながら、おうちごっこをする事です。

「今日は私がお母さんで、お姉ちゃんがお姉ちゃんだよね。」

「うん。私は16歳の高校一年生にする。」

「いいよ。じゃあお母さんは3歳の年少さんね。」

ちゃんと3歳の声にしてね。」

「はい。じゃあ、読むよ。」

この日は、お母さん役の妹のリードによってパズルや図鑑を選び、それぞれの好みのサンドイッチを

作って、みんなでおいしくいただきました。こんな風に子ども達と一緒に絵本の世界を楽しめるのは、とても幸せな事だなとしみじみ感じます。

特に、寝る前の読み聞かせの時間は一日の中でも大切な時です。不器用なので、イライラしたり心配事の為にモヤモヤした気持ちのままでは、絵本を前にしても本気で読み聞かせられません。まず深呼吸して、ゆっくりと題名を読みます。すると不思議と心が落ちつき、だんだん絵本の世界へ引き込まれ、読み終わる頃には気分もすっきりとしています。

子ども達にとっても、例えばいつもと違う体調や環境でも、絵本を読んでもらう事で、いつもと同じ気持ちで休める様です。そうしてお互いに優しい心で、「今日も一日ありがとう。大好きだよ。お

やすみなさい。」と伝え合い、眠りにつきます。

思い返せば、私の今日までの日々をたくさんのお絵本が彩り、支えてくれました。

先生、その事に改めて気付かせて下さり、ありがとうございます。

日頃の娘達を見ていると、夢見る夢子ちゃんが垣間見え、現実には厳しいぞ、と心配でもあります。が、ほほえましくもあります。

こうして毎日出会う絵本の世界が、娘達それぞれの人生の彩りとなり、支えの一つとなると良いなと願います。

最後までお読み下さり、ありがとうございます。た。